

全国を駆け抜けた 江陽中のリレー侍

●第51回全日本中学校陸上競技選手権大会
4×100mリレー 出場



②



第1走

森垣 耀色琉さん (3年)
Morigaki Airu

サポート

河原林 聖さん (3年)
Kawarabayashi Sho

サポート

吉川 優生さん (3年)
Yoshikawa Yusei



③



①

アンカー

佐古 奏翔さん (3年)
Sako Kanato

第3走

佐古 歩翔さん (2年)
Sako Ayuto

第2走

松原 志勇さん (3年)
Matsubara Shu

サポート

長壁 海莉さん (3年)
Osakabe Kairi



④

※写真はご家族および関係者からの提供を含む

①/全国大会に出場した選手たち ②/京都府大会優勝校に贈られた金色のバトン ③/4×100mリレーに出場した選手(左から森垣さん、松原さん、佐古歩翔さん、佐古奏翔さん)と時田教諭(右) ④/近畿大会決勝。森垣さんから松原さんにバトンが渡る

7月28日、「第77回京都府中学生総合体育大会(陸上競技の部)」

の4×100mリレーで、江陽中が京都府の頂点に立った。

決して楽なレースではなかった。勢いよくスタートするも、他校に先行される展開が続く。強豪校に食らいつきながら、アンカーの佐古奏翔さんにバトンが渡る。

「この差ならいける」

持ち前の勝負強さでアンカーたちとの競り合いを制し、一番でゴールラインを駆け抜けた。全国への挑戦権を得た瞬間だった。

昨年、同校は低学年(中学1・2年生で構成)の同種目で、京都府の頂点に立っていた。そのときから目標は、来年も京都府の頂点に立ち全国へ——。各自、専門種目がある中、スピード練習な

どを積み重ね、着実に力を付けていった。陸上競技部顧問の時田元太教諭は「選手たちは強くなるために何をすべきかをわかってる。リレーの走順も自分たちで考えて決めている」と日々の様子を話します。

全国大会の前哨戦となった8月の近畿大会。個人種目に出場する選手がいる中、サブメンバーも含めて予選と決勝を戦い抜き8位入賞を果たし、誰が出場しても戦える手応えをつかんだ。

全国大会の舞台は、桐生祥秀選手が100mで日本人初となる9秒台を記録した陸上競技場「9・98スタジアム」。競技が始まると、これまで聞いたことのない声援が選手たちを包む。第1走は森垣さん。「フライングだけに気を付けた」と、持ち前のスタートダッ

シュで第2走の松原さんへ。直線でグングンと加速し、第3走の佐古歩翔さんへ。コーナーをきれいに回り、兄でアンカーの佐古奏翔さんへバトンが渡るころ、競技場の声援は最高潮に。「声援に惑わされず、自分の走りをするだけ」と、サポートしてくれたメンバー、学校の仲間や先生、家族、応援してくれる方の思いがこもったバトンを手には、ゴールラインをめがけて全力で駆け抜けた。結果は予選組の5位。全国の壁は高かったが、確かに刻んだ江陽中の足跡。悔しい思いもしたが、「高校でも競技を続けて、再び全国の舞台に立ちたい」と前を向く。この夏、家族を、学校の仲間たちを、そして与謝野町を熱くした7人の選手たち。夢と希望、そして感謝をありがとう。